

予防接種スケジュール表 (同時接種前提)

お誕生日 年 月 日 お名前

ワクチン名	接種チェック	1か月	2か月	3か月	4か月	5か月	6か月	7か月	8か月～11か月	1歳	1歳1か月～5か月	1歳6か月	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳
不活化ワクチン B型肝炎 定期	☐ 1回目 ☐ 2回目 ☐ 3回目		①	②				③										
		4週以上		1回目から139日以上(20週～)の間隔をおいて3回目														
経口生ワクチン ロタウイルス 定期	☐ 1回目 ☐ 2回目 ☐ 3回目		①	②	③													
		4週以上		(2回：24週まで) (3回：32週まで) ※ワクチン予約時間の30分前までに授乳・ミルクは終了しておきましょう ※授乳・ミルク後、30分以上経過していないとワクチン接種ができません ※ワクチン接種後、30分経過したら授乳・ミルクができます														
不活化ワクチン ヒブ 定期	☐ 1回目 ☐ 2回目 ☐ 3回目 ☐ 追加		①	②	③							追加						
		4週～8週		4週～8週		3回目から7か月以上あけて、かつ1歳												
不活化ワクチン 肺炎球菌 定期	☐ 1回目 ☐ 2回目 ☐ 3回目 ☐ 追加		①	②	③							追加						
		4週～8週		4週～8週		3回目から60日以上あけて、かつ1歳												
不活化ワクチン 五種混合 定期	☐ 1回目 ☐ 2回目 ☐ 3回目 ☐ 追加		①	②	③							追加						
		3週～8週		3週～8週		3回目から6か月～1年6か月の間												
生ワクチン BCG 定期	☐ 1回					①												
		5か月～8か月が理想																
生ワクチン 麻しん風しん 定期	☐ 1期 ☐ 2期									①							②	
												年長・就学時前まで						
生ワクチン 水ぼうそう 定期	☐ 初回 ☐ 追加									初		追加						
							6か月あける											
生ワクチン おたふく 任意	☐ 初回 ☐ 追加									初						追加		
							4年から6年あけて											
不活化ワクチン 日本脳炎 定期	☐ 1回目 ☐ 2回目 ☐ 追加													①	②	追加		
												1週～4週					2回目からおおむね1年後	
不活化ワクチン 三種混合・ポリオ 任意																		
		※1 裏面参照 就学時前(以降も接種可)																



注射の生ワクチン同士の
接種間隔は中27日あける



定期接種可能な期間



任意接種可能な期間

持ち物

[埼玉県内の方] ① 診察券 ② 母子手帳 ③ お住まいの市町村の問診票
[埼玉県外の方] ① 診察券 ② 母子手帳 ③ 依頼書 ④ お住まいの市町村の問診票
(予防接種の種類によっては院内の問診票で可能な場合もあります。)
※お忘れの場合接種が出来かねますので必ずお持ちください。

ワクチンで予防する子どもの病気

ワクチンで防げる病気があります。接種時期をみて、早めに接種スケジュールを組みましょう

予防接種を受ける前に

受ける予防接種について、 わからないことは医師に質問しましょう。	母子健康手帳は 持ちましたか？	予約票の記入は 済みましたか？	子どもの体調について、 判断が難しいときには医師に相談を。
-------------------------------------	--------------------	--------------------	----------------------------------

ワクチン	感染について	接種時期・回数	ワクチン	感染について	接種時期・回数
B型肝炎ワクチン	【B型肝炎】 B型肝炎ウイルスを持つ母親だけでなく、家族やお友達などからも感染します。肝炎になると、疲れやすくなり、黄疸が出ます。慢性化すると肝硬変や肝臓がんにつながります。	全3回 標準的には生後2か月から接種。4週以上の間隔で2回。2回目から4～5か月の間隔をあけて3回目。（母子感染予防を除く）	BCGワクチン	【結核】 結核菌が、主に肺について肺結核を起こします。子どもでは脳を包む髄膜につく結核性髄膜炎や重い肺の病気（粟粒結核）で重症になったり、死亡したりします。	1回 生後12か月（1歳）未満。生後5～8か月未満に接種することが推奨されます。
ロタウイルスワクチン	【ロタウイルス感染症（ロタウイルス胃腸炎）】 ロタウイルスは感染力が強いため、多くの乳幼児が感染します。激しい嘔吐や下痢、発熱を伴い、脱水症状やけいれんを起こしたり、脳症や脳炎等を合併することもあります。	5価（全3回）または1価（全2回） 32週までに3回接種を完了する5価ワクチンと24週までに2回接種を完了する1価ワクチンの2種類があります。どちらのワクチンも初回は生後14週6日までに接種することが推奨され、接種間隔は4週以上です。	MR（麻疹、風疹混合）ワクチン	【麻しん（はしか）】 熱、鼻水、せきなどの症状のあと、3～4日目から全身に発疹が出て、高熱が7～10日続きます。気管支炎、肺炎、脳炎等を合併しやすく、死亡することもあります。 【風しん】 体に赤い発疹が出ます。熱は出ないこともあります。まれに脳炎や血小板減少性紫斑病という合併症が起こることがあります。妊娠初期の女性がかかると出生児への障害の原因となります。	全2回 生後12か月（1歳）になったら、すぐ1回。小学校入学の前年に2回目。
小児用肺炎球菌ワクチン	【小児の肺炎球菌感染症】 鼻やのどにいる肺炎球菌が血液の中に入り、細菌性髄膜炎や細菌性肺炎などを起こし、死亡や重い後遺症が残ることもあります。重い中耳炎の原因にもなります。	生後2～6か月に接種開始 全4回 4週以上の間隔で3回。3回目から60日以上あけて生後12～15か月に4回目。 ※生後7か月以降に接種開始の場合は、接種回数について医師にご相談を。（接種対象は2か月～5歳）	おたふくかぜワクチン	【おたふくかぜ（流行性耳下腺炎）】 耳下腺の腫れが目立ちますが、全身の炎症も起こします。無菌性髄膜炎、一生治らない難聴、脳炎の合併症があり、死亡や脳の後遺症が残ることもあります。	全2回 1歳から接種。1回目の2～4年後に2回目を受けるとしっかりと免疫がつけます。
五種混合（DPT-IPV-Hib）ワクチン	【ジフテリア】 ジフテリア菌がのどについて、気道がふさがって息ができなくなったり、菌の毒素で神経麻痺や心臓の筋肉の炎症を合併して死亡することもあります。 【破傷風】 破傷風菌が傷口から入って、菌の毒素で全身の筋肉がけいれんし、最終的には後ろに大きく弓なりの姿勢になり、痛みと苦しさを伴います。呼吸ができず、死亡することもあります。	全4回 生後2か月から3～8週間隔で3回。3回目の後、12～18か月の間（6か月後から接種可能）で4回目。	水痘（水ぼうそう）ワクチン	【水痘（みずぼうそう）】 水痘帯状疱疹ウイルスの感染により、熱が出て、かゆみのある虫さされのような赤い発疹が出て、水ぶくれになり全身に広がります。7日程度でかさぶたになります。脳炎や肺炎、皮膚の重い細菌感染症などがあり、死亡や入院することもあります。	全2回 1歳から接種。1回目から3か月の間隔をあけて2回目。
	【百日せき】 百日せき菌がのどなどにつき、かぜのような症状で始まり、せきが長く続くようになります。けいれんや肺炎を起こしたり、1歳未満、とくに生後6か月以下では無呼吸で死亡したり脳症を起こすこともあります。 【ポリオ（急性灰白髄炎）】 ポリオウイルスによる感染症です。感染しても、ほとんどの場合は、発病しないか、発病しても多くはかぜ症状ですが、まれに手足に麻痺を起こし、運動障害が残ります。 【ヒブ（ヘモフィルスインフルエンザ菌b型）感染症】 鼻やのどにいるヒブが血液の中に入り、細菌性髄膜炎、喉頭蓋炎や細菌性肺炎などを起こします。死亡や重い後遺症が残ることもあります。		日本脳炎ワクチン	【日本脳炎】 感染した豚の血から、蚊を介して日本脳炎ウイルスに感染します。多くの場合は無症状ですが、脳炎を起こすと、死亡や後遺症が残ることが多くなります。	全2回 1歳から接種。1回目の2～4年後に2回目を受けるとしっかりと免疫がつけます。

※1 日本小児科学会では小学校就学前に三種混合とポリオの追加接種を推奨しています。

百日咳の予防接種は、四種混合ワクチンに含まれており、0歳台で3回、1歳台で追加接種が定期接種となっています。しかし、乳児期に四種混合ワクチンを接種していても、近年、百日咳にかかる小学生が増えていることもあり、就学前には百日咳抗体価が低下していることがわかっています。

また、ポリオも学童期以降の予防目的で、5歳以上7歳未満で抗体価が低下する前の接種が勧められています。

四種混合ワクチンは4回までの接種しか承認されておらず、任意接種となりますが、三種混合＋ポリオをセットで、追加接種していただくことをおすすめしております。